



**アイ
ズ
ン
ズ
様
の
夏
鬱**

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

第6階層守護者
アウラ・ペラ
ファイオーラ

御身の前に

同じく
第六階層守護者
マール・ペロ
ファイオーレ

御身の前に

我ら姉弟

お召しにより
参上致しました。

アイنز様の 憂鬱

あー…うん。

ご…ご苦勞…
兩名とも面を
上げよ…。

あのー、
私達だけ
直々にという
のは…

僕達
何か…アイズ様の
ご機嫌を
損ねるような
ことを…

あーいやいや。

そういうコト
では無いのだ。

アッ
アッ



お姉ちゃん…
結局アインズ様

僕たちに何の
用事だったのかな

うーん…
私もよく
分かんなかったよ

おしべがどうとか
めしべがどうとか
言ってたけど…

植物のことなら
マールの方が
詳しいでしょ？

まあ、そんな
大事な話でも
なかったみたい
だし…
いっか別に♡

そうだね。
ほんとに大事な話
だったら

アルベドさんや
デミウルゴスさんに
相談するでしょっ

いや、なんで
アインズ様が
そんな話を僕達に
するのかなーって…

まあ…
確かにね

って…まあ
確かにね



なんかムカつくっな

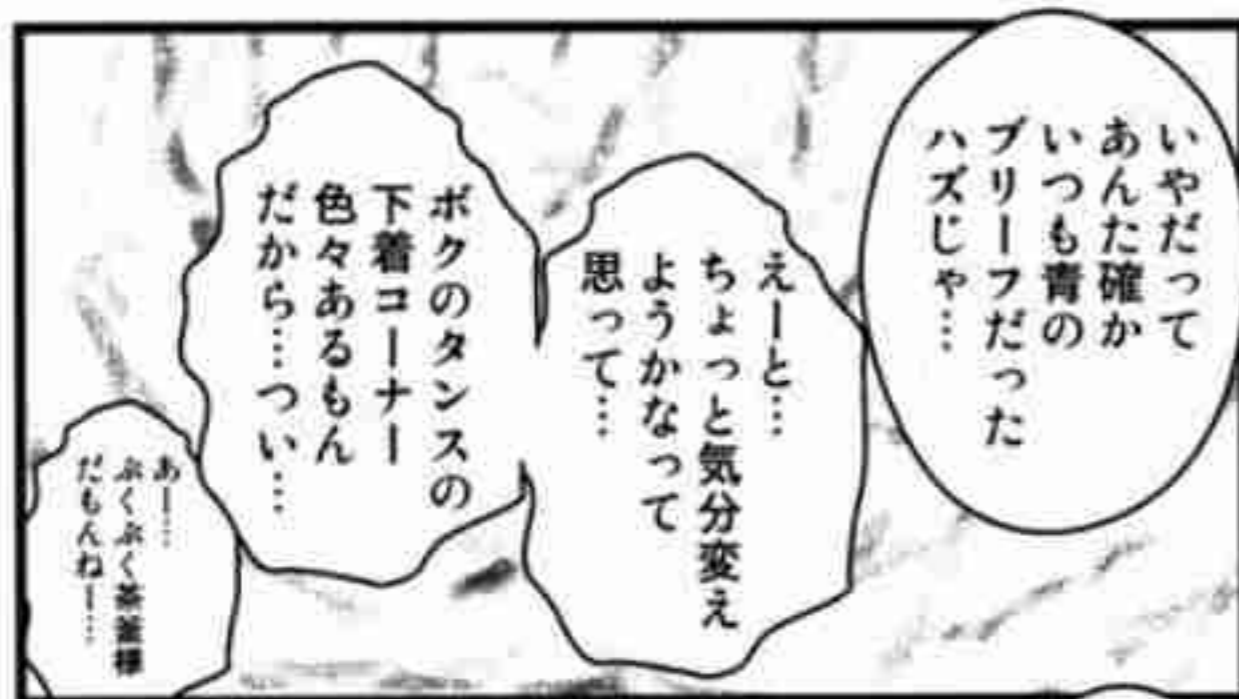
きやつ



マーレ……あんたねえー……

男子でしよっ

だ……だってお姉ちゃんが急に……



いやだってあんた確かいつも青のブリーフだったハズじゃ……

えーと……ちよつと気分変えようかなって思っ……

ボクのタンスの下着コーナー色々あるもんだから……つい……

あ……ふくふく茶蓋様だもんね……



大体何よそのパンツ。

アタシだってそんなカワイイの持っていないのに……

し……仕方が無いよーっ

ふくふく茶蓋様がボクの為に用意して下さったんだから……



もー悪かったって

機嫌直してよ早く帰ってお風呂入ろっ

うん……









あっ…
あー…

ビュン

ビュン

あははっ
ごめん
ごめーんっ

マールが
カワイイから
つい意地悪
しちゃったー

もうーっ
だから…
だからダメって…

もうーっ
お姉ちゃん
いつもそんな
こと言ってるー

グズン…

ハッ



じゃっ
お詫びにっ♡

あっ



えっ!?



あっ
あっー

あっ

アツク
アツク



おっ
お姉ちゃんっ

アゴ疲れ
ちやった

ボクまだ
イって…

やっぱ続きは
ベッドでねっ♡

そんなあ…



んんーっ？

じゃーあー
どうしたら
いいのかなー？

!!

ほーらーっ
こっっ

お姉ちゃんの
気持ちイイ
トコ♡

クキョ...

そうそう
上手ー

上手よー
マレ...





ほらっ
マーレ

お・い・で♡

くちゅ...



この前は
初めてでうまく
いかなかったけど

.....

もうお姉ちゃんの
裸にも平気慣れて
きたでしょ?

うん...まあ...



うん...

わかった...



大丈夫
もうマーレは

立派な
男の子
だよ

よと。
じゃっ
始めよっか

まず私が下
マーレが上ねっ♡

もうー
そんな情けない
顔しないの

お姉ちゃん…

リラックスっ
リラックスっ

ん♡

そのまま
押し込んで…

お…姉…ちゃん♡

…んっ

そうそう
ソコよ





マールレ...
あの...

10/4

ちよっと...
タンマッ

ちよっと...
休憩しよっ



お願い...
だから...

...少し
休ませてえ



ごめん…

お姉ちゃん
ごめんね…

あ…あんなね

もうちょっと
だから…

何回すれば…
気が済むのよ…

い…いい加減に
しなさいよ

私のアソコ
壊れちゃうじゃ
ないの？



でも…
止まんないん
だもん

お姉ちゃんの
臍内…

気持ち
良すぎるん
だもん…

ごめんね…
平気？
お姉ちゃん

ま…まあ
いい…わ

これなら
すぐに赤ちゃん
できるわね

私と
マールだね

うんっ
楽しみだねっ

ふくふく茶釜様が
私たちに子供が
作れるように
してくれたコトに
感謝しないとね

うん
そうだね

いっぱい
子供産んで
ナザリックの為に…

アインズ様に
忠義を尽くせる
立派な子供に
育てないとね

うん。
ほくもがんばる

そうね二人で
がんばろっ

ほらちょっと
見せてみなさいよ

もーお姉ちゃんっ
やめてっば

何よ今さらー
あんなに私ん中に
出しまくって

チンチン平気か
見たげるって

へへへっ
でもあんたも
やる時はやる
わねー

さっすが
私の弟っ
見直したよ

いーっばっ
もおー

あっ…

何、
どしたの？

ねえ
お姉ちゃん

今日アインズ様に
呼ばれた用事って
もしかして…

又当初の表紙等
大圓形の1/4くらい
泣ける(??)



『お前様よ』

「なんだ、忍。いやちょっと待て。今回は化物語本じゃないぞ。いいのかオイ。」

「何を言っておるのかさっぱり解らんが。

あれじゃのうお前様と僕の大恋愛譚たる原作の方も順調にアニメ化で消化中じゃなあ。
次期シリーズが楽しみじゃ。

てか原作の方、既に順調にネクストシーズンに移行して行くらしいのお。

お陰でまだまだ出番がありそうで何よりじゃ。かかっ。」

そんなワケでお前様よ、この『オーバーロード』とかいう小説。面白いのおー。」

「また強引な舵の切り方だな。まあお前もようやく空気を読むということができるようになったか。

人はおろか永遠の時を生きる吸血鬼をも成長させる。時の流れというのはけだし偉大だな。

てか忍。お前全巻既読済みなのか。」

「ああ。アニメが三巻までのエピソードじゃったからの。第二期まで待ち切れなかったんじゃ。」

「おいっ。それは偉大なる御方たる丸山くがね先生に失礼じゃないのか？ファンなら」

「いやいやいや。僕ちゃんと本買っとるもん。手元で愛でておるもん。

時々ワイドショーとかで見かける『話題の小説読みましたか？』の質問に

『まだなんですよー、図書館の貸し出し予約が二ヶ月待ちで一』とか

いけしゃあしゃあと答えるクズと一緒にせんで欲しいの。

あやつら作品や著作者、それに関わる全ての人達の苦勞をなんじゃと思っとるのかのう。

背中にドロップキックかまして合法じゃと思うんじゃ。

そして言ってやりたい。

『買えよっ！金出して！！』とな。

忍。お前の気持ちは十分に理解した。

だがそこはそれ。ここは一つこのボクの顔を立てて元の話の軌道に戻ってはくれまいか。

うむ。もったもな意見じゃ。さすが我が主様。てか僕、今六巻まで読んだところで

その先は来年の楽しみにとっておるんじゃがの。」

「原作は九巻まで出てるんだっけ。でもこれブ厚いなー。読むの大変じゃ無いのか？」

「いやいや、大変読みやすいぞ。気がつくにあっという間に時間過ぎててびっくりじゃ。

それはそうとお前様よ

いよいよというかいよいよじゃな！劇場版傷物語。

あれもうなかったことになってたと思っておったわい。CM見たらクオリティ半端なさそうじゃのお

あ。ここで言うべきか

「ほんっとばないのお！」

「おまえさっきボクが言ったこともう忘れてんの？」

いろいろ待たせたい 冴樹高樹
2016.冬



ろり絵号
構成 冴樹高樹
2015年12月31日
プリントマウス様

roriego@gmail.com

http://kibatora.blog.fc2.com/

Presented By
Rori-E-Go
In 2015 WINTER

御身の前に平伏し奉る